

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100445		
法人名	有限会社 風		
事業所名	グループホーム「シュアー」		
所在地	岐阜県多治見市東栄町1-35-1		
自己評価作成日	令和3年1月26日	評価結果市町村受理日	令和3年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosyoCd=2171100445-00&Ser_vl_cd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ静かな環境で、地域の方々に支えられながら、ホーム内は「いつも清潔に」を目標に、過ごしやすい環境づくりを力を入れています。四季を通じて、庭や各お部屋のフラワーボックスに花を育てています。植物を利用者様と共に育て、ゆっくり毎日が過ぎていく、そんなホームです。終末期の取り組みもご家族、主治医、職員で連携を図りながら、可能な限り、ご本人の希望に沿うような支援を行っています。常に介護知識・技術向上を目指し、積極的に研修を行っています。コロナ禍でも利用者様に楽しく過ごしていただけるよう、ホーム内で季節行事の実施を増やしました。誕生日会に加えて夏祭り、忘年会、新年会を行い、お楽しみいただけました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、自然に恵まれた静かな山あい立地し、天井が高く、自然採光に優れて明るい造りである。また、広い窓からは、庭を眺めたり、四季の折々の景色を眺めたりできる。玄関にはフラワーボックスが置かれ、庭にはパンジーやチューリップ等が植えられている。現在、コロナ禍の影響で、例年よりは外出活動が制限的にならざるを得ない状況にあるが、庭が広く、日光浴や散歩等、利用者それぞれに過ごすことができている。また、コロナ禍中でも楽しめる屋内行事も工夫して実施している。ホームでは、「ゆっくり、たのしく、いっしょに」というわかりやすい言葉にした理念を掲げ、利用者・職員間のアットホームな関係づくりに努めている。また、看護師が3人在籍し、協力医と24時間の医療連携体制ができており、利用者・家族の安全・安心につながっている。サービスの質の向上の観点から、独自テーマでの研修会の実施等、職員の育成に力を入れるとともに、職員が生き生きと働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様にも分かりやすい言葉なので、スタッフも利用者様も一緒に確認しあって、現場で生かすことを徹底しています。	誰にもわかりやすく言葉にしやすい理念があり、ホーム内に掲示してある。職員間で理念を共通理解し、日々、理念に基づいたケア実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方から野菜や果物を頂くことがあるので、季節行事の際には、シユアーで作った料理をご近所様にお裾分けして、日々交流を続けています。	今年度は、コロナ禍の状況にあり、地域との交流活動が困難であるが、近隣の方々からのいただきものやホームの料理のおすそ分けなどを通じて、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、ケアマネージャーさんを通じ、自治会長さんや、社会福祉協議会などに、地域で見守りが必要な方についての情報を伺い、その方に必要な支援方法を連携して取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ予防対策の為、書面開催しています。	今年度は、コロナ禍の只中にあるので、書面で開催している。市担当課、地域包括支援センター、地域の方々や家族等の委員に書面での報告を行うとともに、意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度はコロナ予防対策の為、会議が行えない状況が続いています。ケアサービスなど困難な事例があった場合は、高齢福祉課、地域包括支援センターに対応の仕方を相談し、助言をいただいております。	市担当課から介護保険制度やコロナ対応等についての情報提供を受けたり、困難事例が発生した場合は、市担当課や地域包括支援センターへ相談し、助言を得る等、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、文書による施設内研修を実施しています。ショートカンファレンスや身体拘束廃止委員会等で話し合い、その都度安全確保について検討しています。施設は安全第一で施錠しています。今はコロナ感染拡大が続く中、利用者様の命を守るという使命感を抱き、危険回避を重視しています。	身体拘束廃止委員会を設置し、職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の安全確保のために、必要な場合等には、3要件を確認し、家族の了解を得て行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフに文書研修を行っています。入社3ヶ月以内、入社3年目の職員には研修を行い、虐待防止に努めています。今はコロナの影響で外部研修にはリモートで参加しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度新しく成年後見制度について研修マニュアルを作成し、ビデオ、文書を活用した研修を5月に実施しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはじっくり時間をかけて説明し、ご家族様の思いも聞き、理解、納得を図っています。改定時の際も、直接会って説明し、理解、納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は直接会ってお話を伺う機会が少なかったのですが、通信、電話等を通じて、思いを伝えていただけるよう努めました。利用者様には普段の関りの中で、要望を表出できるようなコミュニケーションを心掛けました。	今年度は、コロナ禍の影響で、家族等の来訪は制限的にならざるを得ない状況にあるが、日々、利用者に寄り添いつつ、利用者の意向、希望を把握するとともに、毎月の通信の送付や頻繁な電話連絡等で家族の意見を聞く機会を持ち、その意見を取り入れながらサービスの質の向上につなげて	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミニ会議を頻繁に行っています。気付いたことをスタッフ間で話し合い、改善に向けての取り組みを行っています。	管理者は日常的な業務を通じて、あるいはミニ会議での話し合いを通じて職員の意見を聞き、意見を受けて改善に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験、年齢、資格を生かして、介護、看護、調理、環境整備のリーダーとして中心的役割をそれぞれが担っています。研修や個人の努力が結果として実を結んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は各種マニュアルの見直しを行い、新たな業務マニュアルを作成しました。ビデオ、文書による施設内研修を月1回以上実施しました。外部研修にはリモート参加し、学んだ内容を他のスタッフにも報告しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は各種会議が書面開催となり、交流はできませんでしたが、新しい情報を得て、日々の業務に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望や思いを伺い、ご家族、全職員で情報共有し、安心して生活していただけるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の事前面談や契約時に、ご家族から直接お話を伺い、要望や思いなどを介護計画に取り入れて情報を共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族から別々に思いを伺い、表情や話し方などから本当の思いを探れるように五感を働かせて対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩なので、昔の知恵を教えてくださいたりしています。洗濯干し、たたみ、食器拭きや食事の盛り付け、お部屋の掃除等、スタッフと一緒にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族の思いを伺ったり、認知症の進行により、ケアプラン変更が必要な際は、ケアサービスの提供について支援いただけるようお話ししています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活の会話の中でも、大切な方のお名前を忘れないように、話してもらえよう会話を心掛けています。	今年度は、コロナ禍の状況にあって困難であるが、例年は、大切にしてきた懐かしい場所への外出や馴染みの人の来訪を促す等、関係継続に向けた取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を見極め、特にホールの座席配置に配慮しています。トラブルになりかけたら職員が間に入ってお話を聞き、寄り添うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もご家族の不安や悩みに耳を傾け、施設にできる限りの支援をしています。現在、サービス利用終了された利用者様のご主人様が入所しておられます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を随時ご家族にお伝えしています。ご自分で思いを伝えられない利用者様については、客観的ニーズや表情、状態等を把握し、職員間で共有するよう努めています。	「ゆっくり、たのしく、いっしょに」という理念を踏まえ、利用者本位のケア実践に臨んでいる。利用者様に寄り添い、言葉だけでなくノンバーバルコミュニケーションを活用し、表情や動きから思いや要望等を把握し、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時やご家族の来所時等にいろいろなお話を伺ったり、センター方式を使用するなどして把握しています。ご本人からも昔の話を伺ったり、これまで暮らしてきた生活環境を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の今までの生活パターンを理解し、その方に合った生活をしていただいています。残存能力等を把握し、自立支援に取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度のモニタリングを実施しています。介護計画作成時、ご本人、ご家族、主治医の意見も含め、全スタッフに対象者のできることで、できないことのシートを記入してもらい、それに基づいて作成しています。意見は記録に残しています。	3か月ごとにモニタリングを実施し、利用者、家族の意向を踏まえ、介護計画を作成している。見直しについては医師の意見を取り入れて多職種間で話し合う等、職員ワンチームで検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きや工夫は随時カンファレンスを行い、会議録や申し送りノートの記録し、職員間で情報共有しています。個別記録に記入した出来事で検討事項があれば、その場にいるスタッフとカンファレンスを行い、実践や介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族のニーズに対応できるよう知識を深めています。身寄りのない対象者には成年後見制度を利用するよう勧め、外部のお買い物代行サービスを利用するなど、ニーズに合った支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔の習慣や外出先、人付き合い、生活習慣などをご本人やご家族から情報収集し、把握に努めています。コロナ禍で面会や外出に制限があるため、昔話や思い出話をさせていただくことで、心穏やかに過ごせるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診と緊急で診ていただきたいときの個別往診をお願いしています。緊急時や説明を要する場合、主治医とご家族で直接やり取りしていただくこともあります。主治医の専門外の科には、ご家族が付き添って外部の病院へ受診していただいています。	協力医とは毎月の往診や緊急時に24時間対応をしてもらう等、密な連携体制ができている。希望や必要に応じ、訪問歯科診療も受けている。ホームには看護師が3名配置されており、利用者の健康管理を行うとともに、職員間で心身状況について共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化は施設内の准看護師に報告し、ケース記録に青ペンで記入し、分かりやすくしています。毎月主治医とは別に正看護師が来所し、利用者の様子を見て迅速に対応できる関わっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療相談員やご家族と連絡を取り合い、早期に退院できるよう、随時情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	予め入所時に看取りに関する説明をし、終末期の前段階から、面会時や電話でご家族の意向を聞き、ご本人からも会話の中でさりげなく意向を伺っています。終末期を迎えた段階で、主治医からご家族に直接お話していただき、スタッフが看取りにあたっています。	入居時に終末期の在り方や看取りの方針について説明し、意向を確認している。重篤化した場合は、かかりつけ医から利用者・家族に説明があり、職員、医療機関、家族の皆で方針を共有して、職員チームで看取りケアを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防署に赴き、救命救急講習を受けています。急変時、事故発生時の対応については動画を視聴し、マニュアルと経験あるスタッフから学び、実践することで、対応できるスタッフが増えるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知器やスプリンクラーの使用方法を学び、実際に通報訓練、避難訓練を実施して、全スタッフが利用者様を安全に避難誘導できるようにしています。	消防署の指導の下、避難経路、避難場所、緊急時の連絡及び誘導方法等について職員間で意識しつつ、訓練している。位置的には、土砂災害のハザード区域であり、対応策も考えている。また、食糧や防災用品等を準備して、災害に備えている。	今後、地震等の災害対策を強化するため、BCP(事業継続計画)計画の作成に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室におられる方には、時々訪室して安全を確認しています。ホールにおられる方には様子の確認をしています。様子確認にて排尿排便に早く気づき、安全に支援、プライバシー確保をしています。	利用者尊重の観点から、利用者一人ひとりの誇りや価値観を大切に、ケア実践にあたっており、日常的な介護場面(トイレ誘導、入浴支援、居室での支援等)では、丁寧に声かけをしながら、プライバシーに配慮した対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の性格やその日の気分に応じて、楽しい時間を過ごしていただけるような対応で支援させていただいております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に女性はお話し好きの為、笑顔で季節の話、好みのお話など、一人一人の思いでお話しさせていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は洋服選びも楽しみの様子なので、重ね着なども見守りにて確認、少しでも楽しんでいただけるよう対応に気を付けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	摂取のスピードも個人差があるため、ご自身のペースで食べていただけるよう声掛けをしています。食後には茶碗を拭いていただいています。	日々、利用者の状態や好みに合わせた献立を工夫して調理している。また、行事の際には、利用者それぞれの食べたい物を事前に聞いて、メニューに反映させている。利用者と職員が会話しながら食事をする等、食事が楽しみなものになるよう努めている。また、準備、後片付けも利用者の状況に合わせて、手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	手作りで野菜、肉、魚をバランスよく取っていただいています。水分は浴後や入床前にも声掛けしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ずスタッフ見守りにて歯磨き実施、ミキサー食の方は必ずスポンジ使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の機能を大切に、個人の排泄時間を気遣い、トイレ誘導、パッド交換、ポータブルトイレの安全確保に努めています。トイレでは排泄物の確認や量の記入を行っています。	利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、それぞれに合ったトイレ誘導や、さりげない支援に努めている。また、できる限り、トイレでの排せつができるよう排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養を考えて調理し、三食、水分の摂取、庭での散歩の見守りなど、気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	まずは楽しく気持ちの良い入浴を心掛けています。車椅子の方も気分良く入っていただけるようにしています。	入浴は週2回を基本としているが、入浴を拒まれる場合には、入浴日時を変更したり、声かけの方法を工夫する等、利用者の状況に応じた柔軟な支援に努めている。また、利用者の好きな音楽をかけたり、好きな物を持って入ったりする等して、ゆったり楽しんで入浴していただけるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は少し居室で休んでいただきます。夜間は消灯し、不安にならないよう声掛けします。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員で利用者様の薬の服用法を確認しあって、誤薬防止しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	副食の盛り付け、食器拭き、トレイ拭き、お茶の葉の用意など、お一人お一人の得意なことをしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春には花見ドライブ、秋には紅葉ドライブ、お寿司をテイクアウトして、いつもより豪華なお食事を楽しんだりしました。	例年は、外食や買い物等、様々な外出活動を行っている。しかし、今年度はコロナ禍の影響で、外出活動が制限的にならざるを得ない状況にあるが、庭や近隣の散策や車中ドライブ等、工夫して外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の自己管理をされている方はおられません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一名の方が生活用品などが必要なときに、自分で電話でご家族とお話されます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節感のあるみなさんの作品を飾って、四季を感じられるようにしています。	共用空間には、利用者の活動の様子を撮った写真等が掲示されている。リビングには南側に大きなガラス窓があり、自然採光に優れて明るく、外の四季折々の景色が眺望できる。また清掃が行き届いており、居心地良いスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士が同じテーブルで過ごせるように、意向を聞いたりして、リラックスできるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族との写真やご本人の作品を飾り、楽しく過ごせるよう心がけています。	居室には、自宅で生活していたころから使用していた馴染みの家具や調度品類が持ち込まれ、家族との写真、本人の作品や行事等での写真も飾られており、利用者それぞれの個性を反映した居室となっている。また手すりを全室に備え付ける等、安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に表示を貼って、分かりやすいように工夫しています。分からなくて不安な方には丁寧に説明し、自立した生活を促しています。		